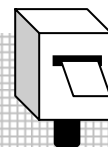


# 教育を見る視点を評価する



提出

## さまざまな情報と異なる意見

多くの人々が学校教育の成果に期待しているのですが、その期待にはさまざまなものがあり、評価の視点を単一化することは困難です。しかし、現在のわが国の学校教育はこの視点についての問い直しに迫られているのです。先にも述べた教育装置としての学校は充実してきているのですが、学習の意味という点ではこれまでの学校教育が期待してきた子ども像と、子どもや教師さらには保護者の期待する子ども像との共通基盤があまりにももろいものになっています。そこで教科書「教育の方法と技術」の第1章から、第2章のリースクールの事例、第3章の第1節までの内容を分担して読んでつぎの課題に取り組み、学習成果を Word ファイルに編集して提出しなさい。そのときに、

**Word ファイル名にチーム名をつけて、代表として技術係が学習管理システムの「レポート」に提出しなさい。**

### Word の編集フォーム例

チーム番号( ) メンバー( )

教育をみる視点の課題1 >> 「教育の方法と技術」参照

子ども中心主義と教師中心主義ということがよく言われますが、それはどのような意味で使われていますか。それぞれの主張の長所と短所を列挙しなさい。

子ども中心主義とは

教師中心主義とは

子ども中心主義の長所と短所

教師中心主義の長所と短所

どのようなときに子ども中心主義をとり、どのようなときに教師中心主義をとればよいだろうか

課題2 >> 資料「授業を設計する」参照

学校教育を教育装置と学ぶ意味の視点から評価したとき、それぞれの視点に対してどのような対応をすればいいでしょうか。

教育装置(学校、教室などの外的要因なもの)の視点から教育を充実する

問 このような視点にはどのような利点と欠点があるか

意味の共有(指導者と学習者が「なぜ学ぶのか」を共有する)や意味の創生(主体的に「なぜ学ぶのか」を発見する)の視点から教育を充実する

問 意味(なぜ学ぶのか)重視の視点にはどのような利点と欠点があるか

と の両者のバランスをとるためにはどのような配慮が必要か